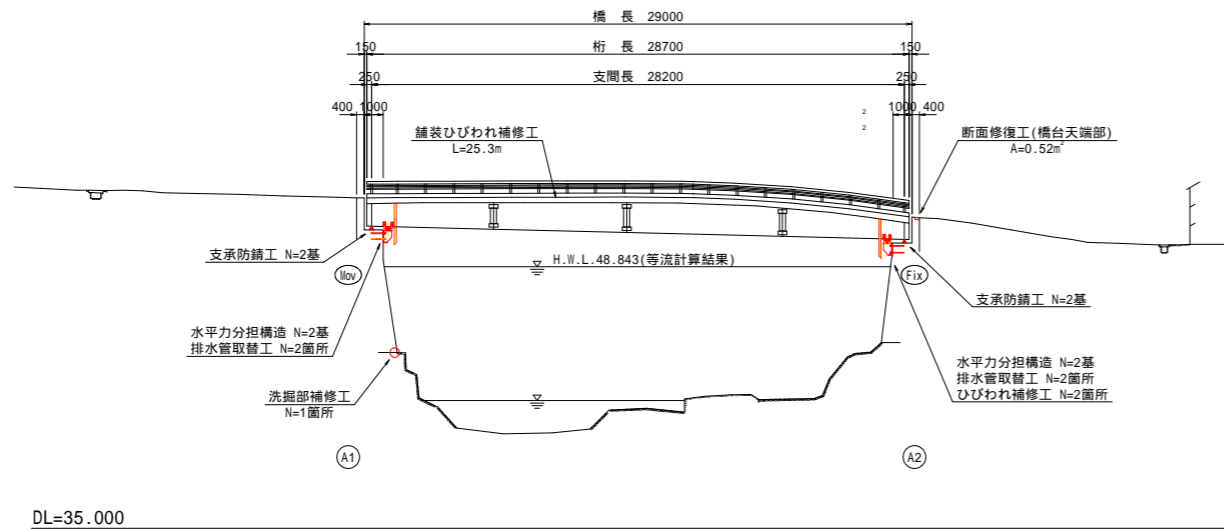
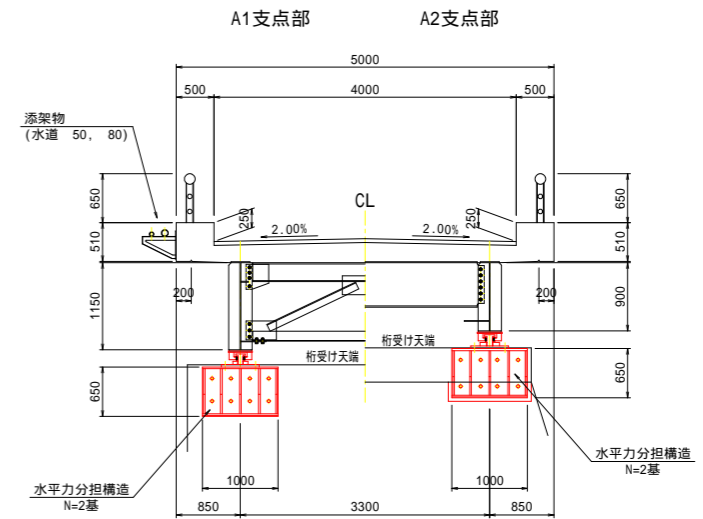


橋梁一般図

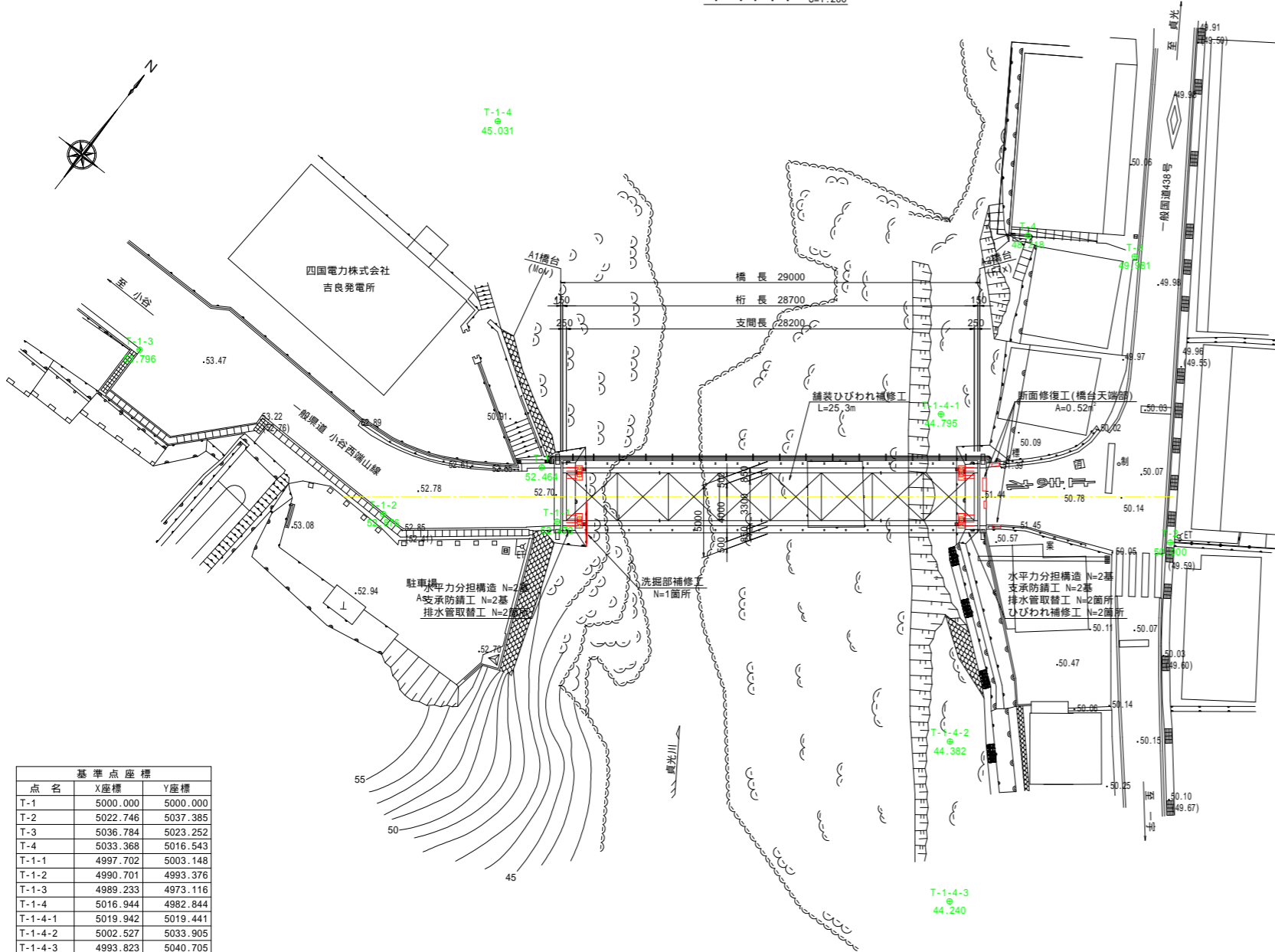
側面図 S=1:200



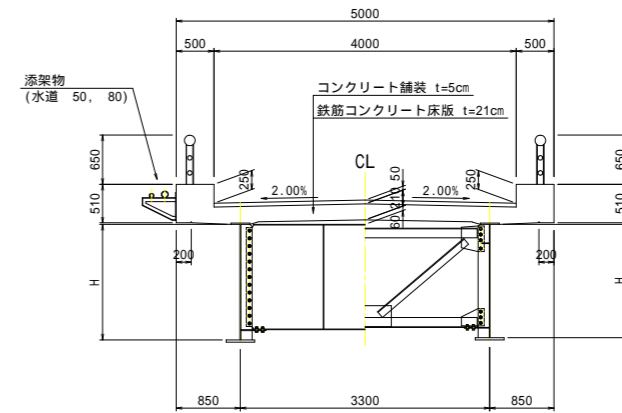
上部工断面図 S=1:50



平面図 S=1:200



横桁部 中間対傾構部



設計条件	
橋格	二等橋 (TL-14)
橋長	29.000m
支間長	28.200m
有効幅員	4.000m
横断勾配	2%放物線勾配
斜角	=90°
上部工形式	単純活荷重合成鉄桁
鋼材	SM50YA, YB, SM53B, SS41
コンクリート	$\gamma_c=280\text{kgf/cm}^2$
鉄筋	不明
下部工形式	重力式橋台
基礎	直接基礎
コンクリート	不明
鉄筋	不明

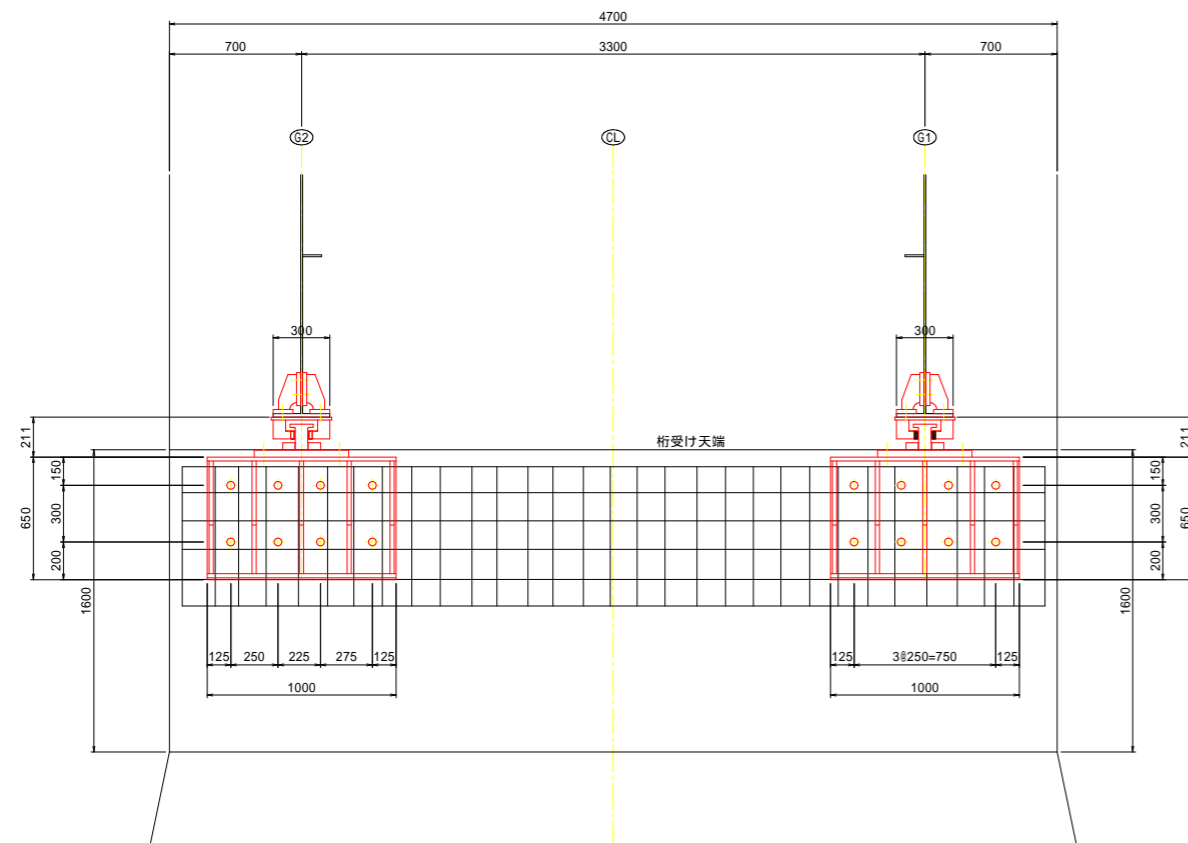
実施設計図面

工事名	R2馬士 小谷西端山線(第一吉良谷橋) つ・真光吉良 橋梁修繕工事
路線名等	(一)小谷西端山線
工事箇所	美馬郡つるぎ町真光吉良(第一吉良谷橋)
図面名	橋梁一般図
縮尺	S=1:200 図面番号 1 / 11
会社名	
事業者名	徳島県西部総合県民局県土整備部<美馬>

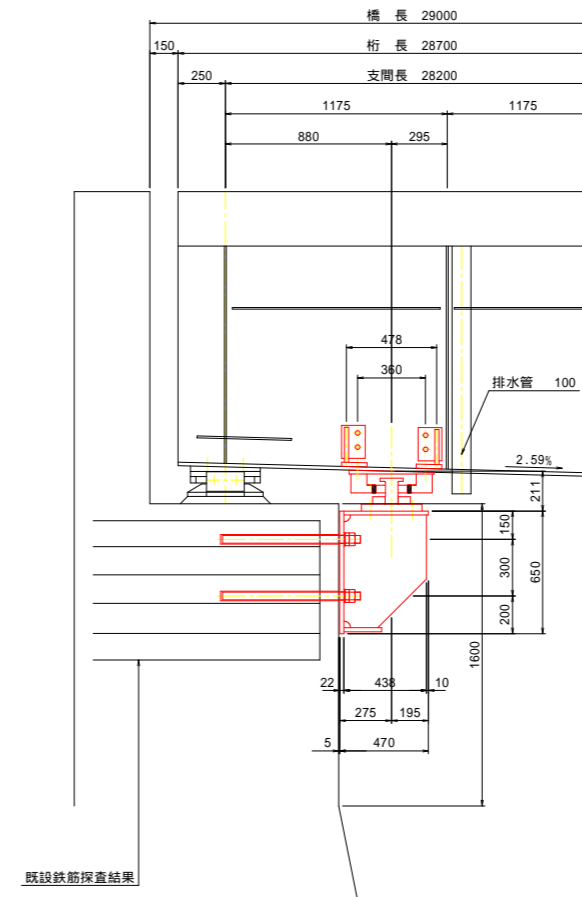
水平力分担構造詳細図(1) S=1:20

(A1橋台(Mov)側)

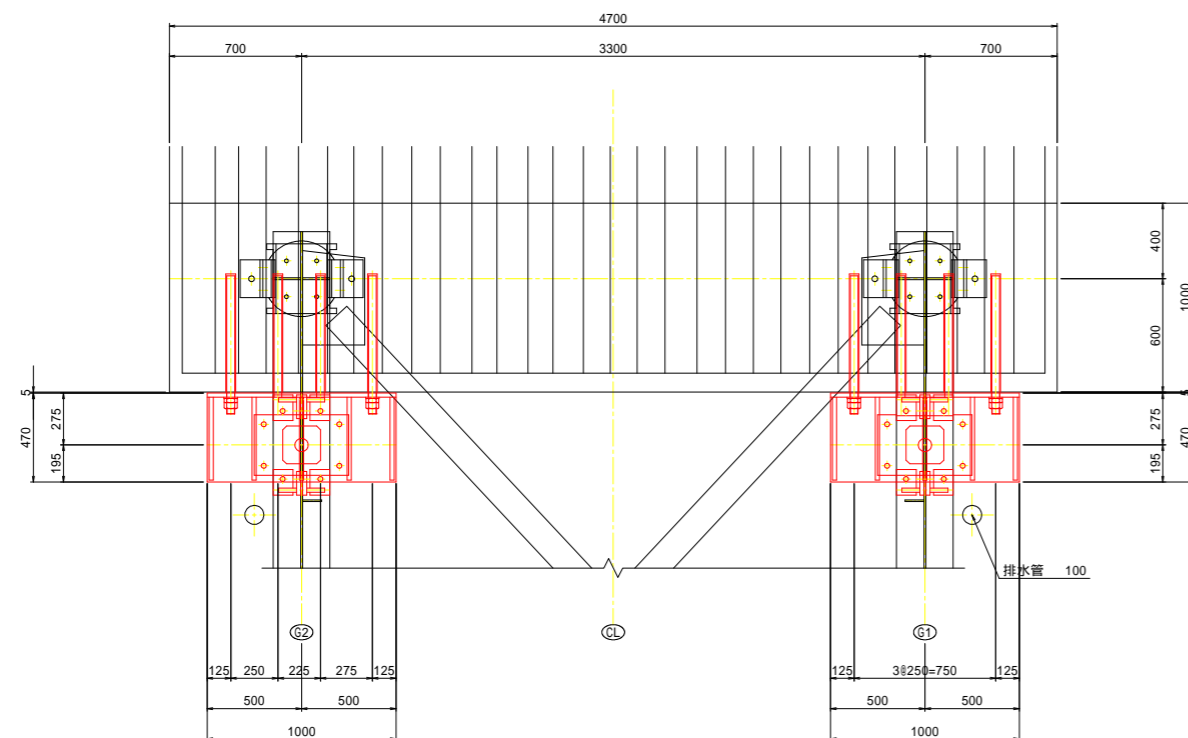
正面図



断面図



平面図



設計条件

設計水平力 (橋軸方向)	55.0 (kN/基)
設計水平力 (橋軸直角方向)	270.0 (kN/基)
移動量 (橋軸方向)	50.0 (mm)
移動量 (橋軸直角方向)	0.0 (mm)

(注記)

1. 図中詳細寸法は、現地実測の上決定のこと。
2. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し既設鉄筋は、切断しないこと。また、既設鉄筋と干渉した場合は、アンカーボルト位置の調整を行うこと。
3. アンカーボルト位置調整に際して、ブラケット端から10cm以上のかぶりを確保すること。

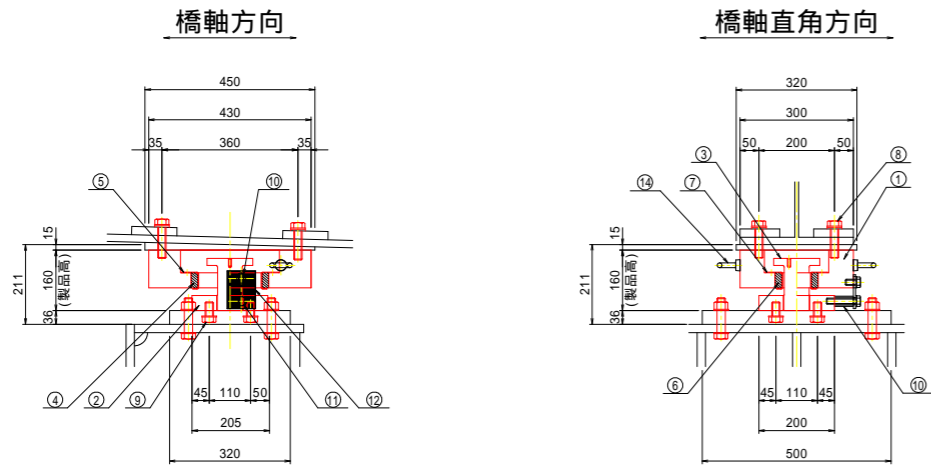
実施設計図面

工事名	R2馬士 小谷西端山線(第一吉良谷橋) つ・貞光吉良 橋梁修繕工事
路線名等	(一)小谷西端山線
工事箇所	美馬郡つるぎ町貞光吉良(第一吉良谷橋)
図面名	水平力分担構造詳細図(1)
縮尺	S=1:20 図面番号 2 / 11
会社名	
事業者名	徳島県西部総合県民局県土整備部<美馬>

水平力分担構造詳細図(2) S=1:10

(A1橋台(Mov)側 <参考図>)

取付詳細図



材料表 (1基当り)

部番	名称	規格	単位	数量	摘要
1	ソールプレート	SEL-N340-50	個	1	SM490A; 亜鉛アルミ溶射処理
2	リミットピンプレート	SEL-N340用	個	1	SM490A; 亜鉛アルミ溶射処理
3	リミットピン	SEL-N340用	本	1	SCM435; ダクロタイト処理, DMコート
4	バッファ-A	SEL-N340用	個	2	クロロプレングム
5	バッファガイドA	SEL-N340用	個	2	SUS
6	バッファ-B	SEL-N340用	個	2	クロロプレングム
7	バッファガイドB	SEL-N340用	個	2	SUS
8	セットボルト(上側)	M22×85 1W, 1SW付	組	2	強度区分8.8; 亜鉛メッキ(HDZ35)
9	セットボルト(下側)	M22×90 1W付	組	2	強度区分8.8; 亜鉛メッキ(HDZ35)
納入時用部材					
10	仮固定ボルトA	M16×30 1W付	組	2	SS400相当品; 電気メッキ
11	仮固定ボルトB	M16×80 1W付	組	2	SS400相当品; 電気メッキ
12	仮固定プレート	SEL-N340用	個	2	SS400; 電気メッキ
13	スペーサー	SEL-N340用	個	2	SGP20A; 溶融亜鉛メッキ
14	アイボルト	M16	個	4	SS400相当品; 亜鉛メッキ(HDZ35)

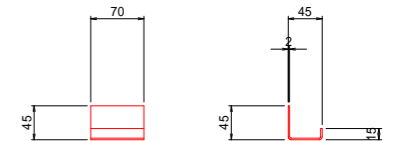
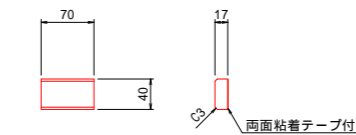
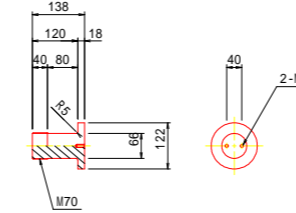
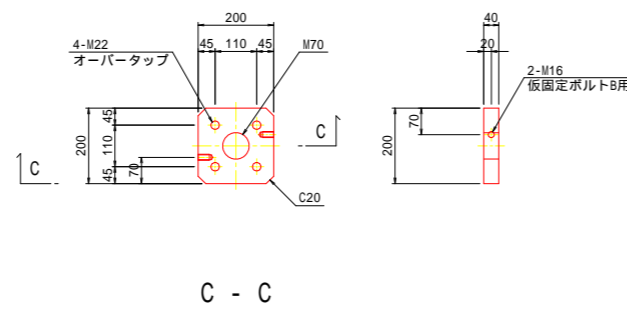
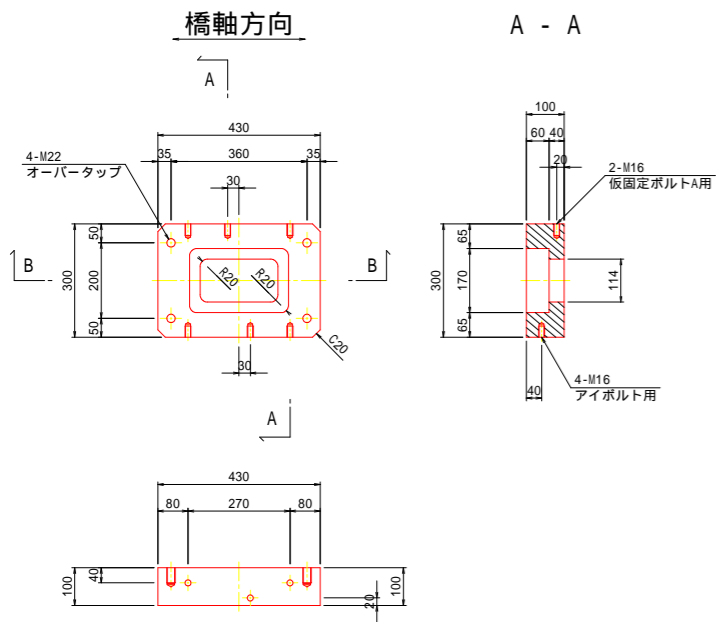
① ソールプレート (SM490A: 亜鉛アルミ溶射処理)

② リミットピンプレート (SM490A: 亜鉛アルミ溶射処理)

③ リミットピン (SCM435: DMコート)

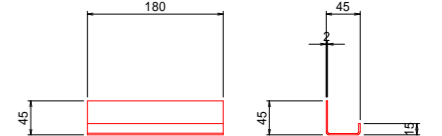
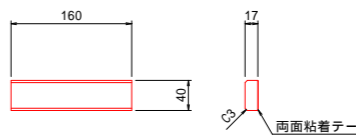
④ バッファ-A (クロロプレングム) S=1:5

⑤ バッファガイドA (SUS) S=1:5



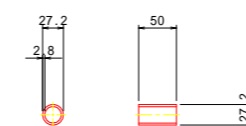
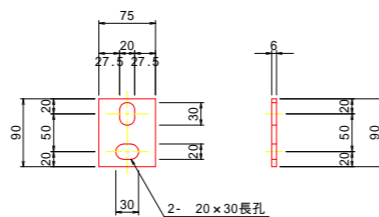
⑥ バッファ-B (クロロプレングム) S=1:5

⑦ バッファガイドB (SUS) S=1:5



⑧ 仮固定プレート (SS400: 電気メッキ) S=1:5

⑨ スペーサー (SGP20A: 溶融亜鉛メッキ) S=1:5



(注記)
 1. 水平力分担構造の納入時組立高さは、取付詳細図に示す製品高+10mm程度とする。
 2. 据付時は仮固定ボルト他、納入時用部材を取り外し、所定の高さで設置すること。
 3. 納入時用部材を取り外した後のタップ孔は、樹脂ボルトもしくはパテ材で埋めること。

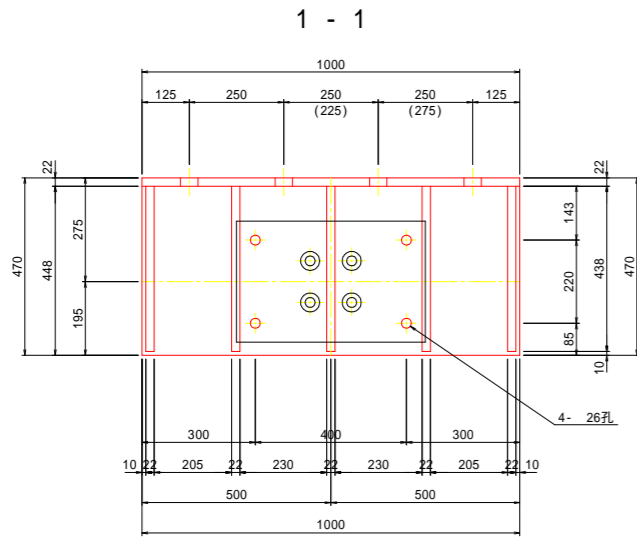
実施設計図面

工事名	R2馬士 小谷西端山線(第一吉良谷橋)
路線名等	つ・貞光吉良 橋梁修繕工事
工事箇所	(一)小谷西端山線
工事箇所	美馬郡つるぎ町貞光吉良(第一吉良谷橋)
図面名	水平力分担構造詳細図(2)
縮尺	S=1:10 図面番号 3 / 11
会社名	
事業者名	徳島県西端山線総合県民局県土整備部<美馬>

水平力分担構造詳細図(3) S=1:10

(A1橋台(Mov)側)

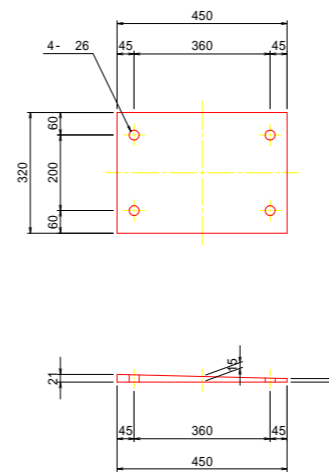
下部工ブラケット詳細図



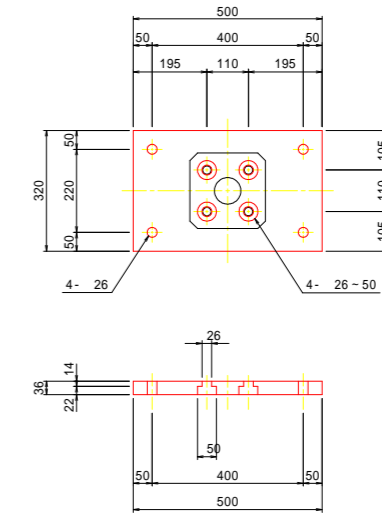
ブラケット1基当り (製作数:2基)
 1-PL 650×22×1000
 1-PL 448×22×1000
 1-PL 200×22×1000
 5-PL 438×22×596

(注記)
 アンカーボルト位置は、()内表記がG2桁側を示す。

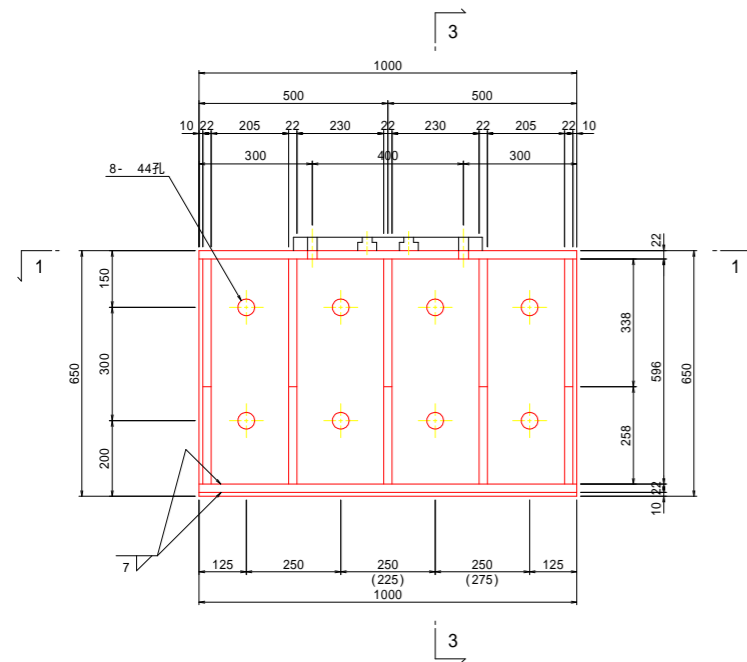
上部工取付プレート



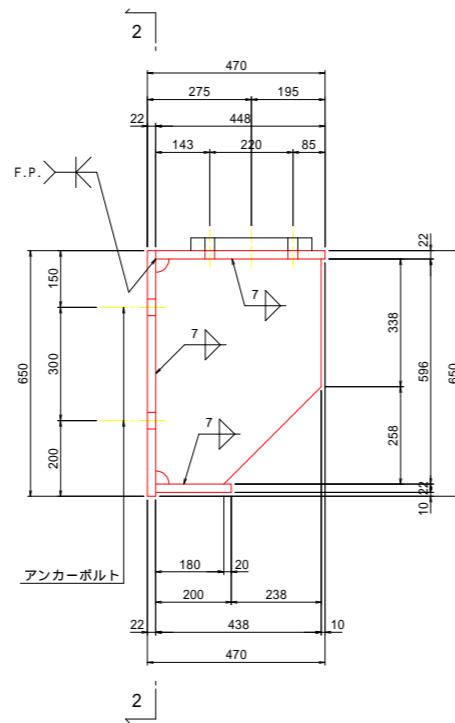
下部工取付プレート



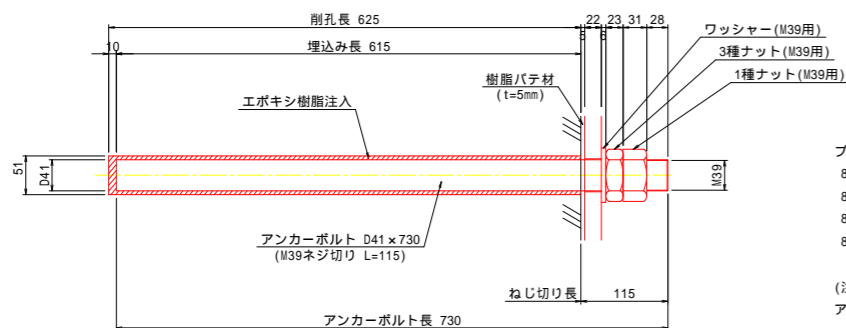
2 - 2



3 - 3



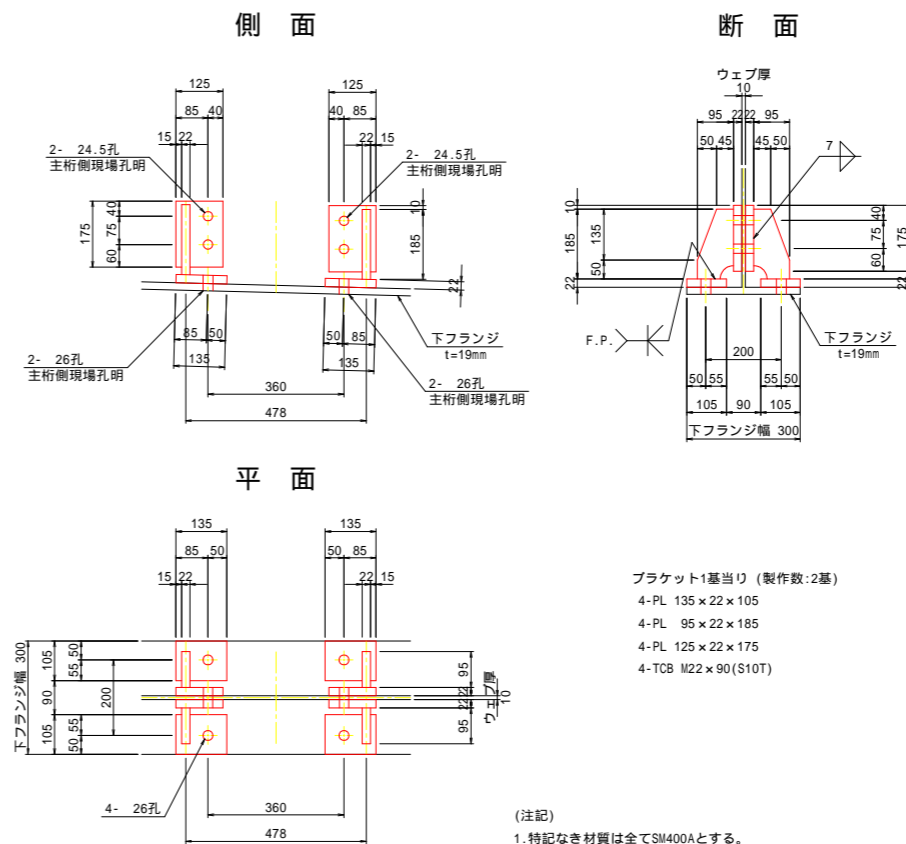
アンカーボルト詳細図 S=1:5



ブラケット1基当り (製作数:2基)
 8-AncBolt D41×730 (SD345)
 8-1種Nut M39用 (SS400)
 8-3種Nut M39用 (SS400)
 8-Washer M39用 (SS400)

(注記)
 アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛メッキを施すものとする。

主桁補強材



(注記)
 1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 2. 特記なきスカーラップは35Rとする。
 3. 主桁補強材以外の部材は全て溶融亜鉛メッキ仕上げとする。
 垂鉛の付着量はJIS H 8641 HDZ55とする。
 但し、ボルト・ナット類はHDZ35とする。
 4. 主桁補強材は、主桁と同等以上の防錆塗装を施すものとする。
 5. 図中詳細寸法は、現地実測の上決定のこと。
 6. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し既設鉄筋は、切断しないこと。
 また、既設鉄筋と干渉した場合は、アンカーボルト位置の調整を行うこと。

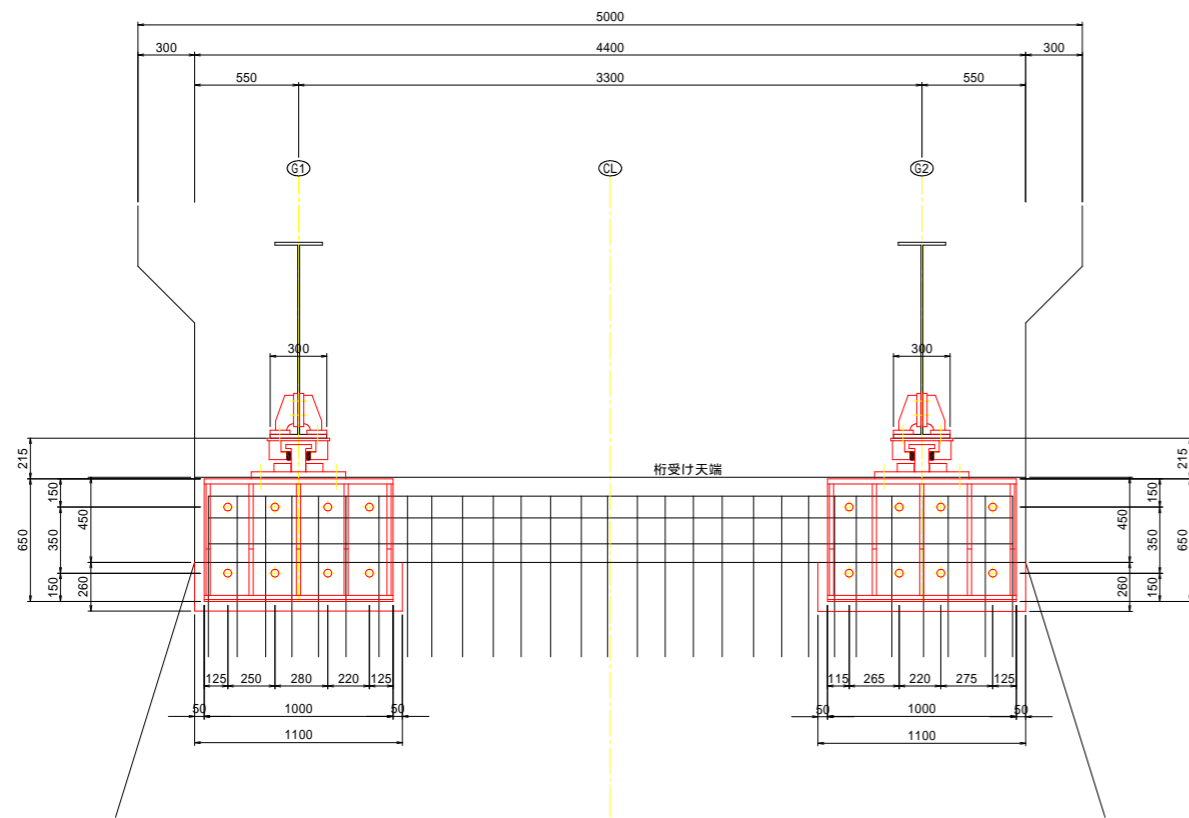
実施設計図面

工事名	R2馬士 小谷西端山線(第一吉良谷橋)
路線名等	つ・貞光吉良 橋梁修繕工事
工事箇所	(一)小谷西端山線
図面名	水平力分担構造詳細図(3)
縮尺	S=1:10 図面番号 4 / 11
会社名	
事業者名	徳島県西部総合県民局県土整備部<美馬>

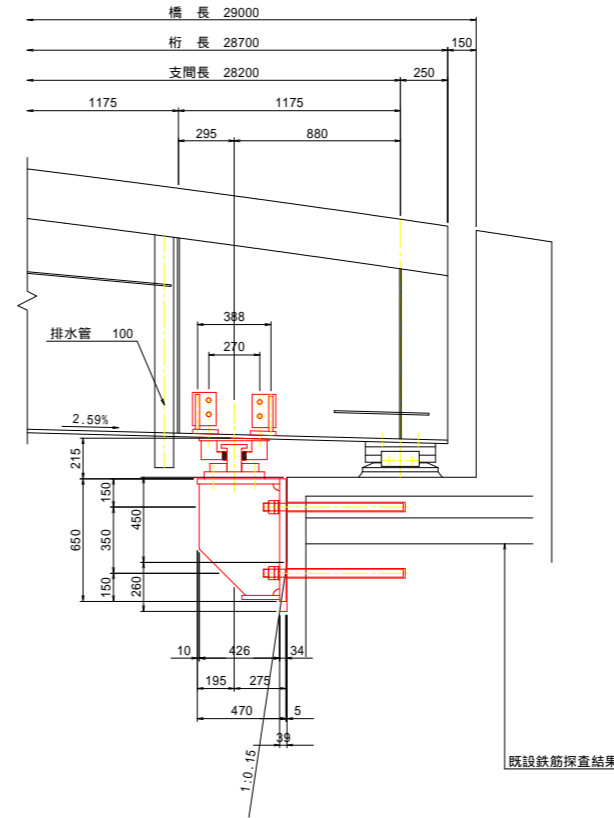
水平力分担構造詳細図(4) S=1:20

(A2橋台(Fix)側)

正面図



断面図



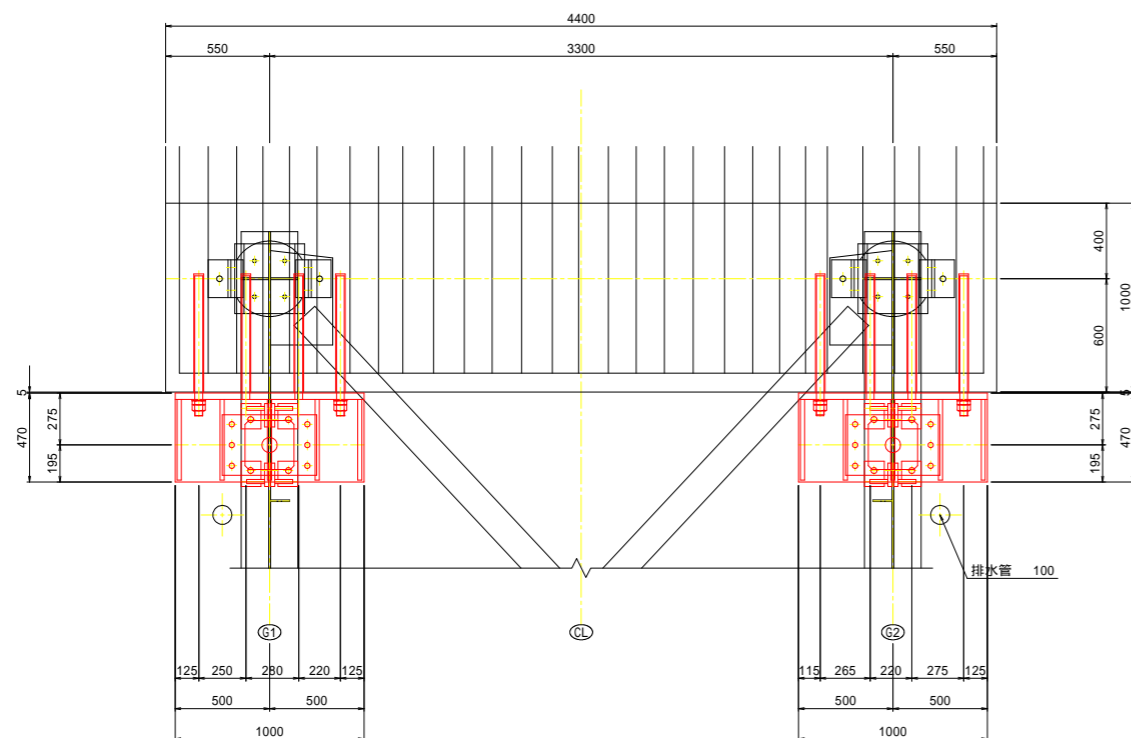
設計条件

設計水平力 (橋軸方向)	520.0 (kN/基)
設計水平力 (橋軸直角方向)	270.0 (kN/基)
移動量 (橋軸方向)	0.0 (mm)
移動量 (橋軸直角方向)	0.0 (mm)

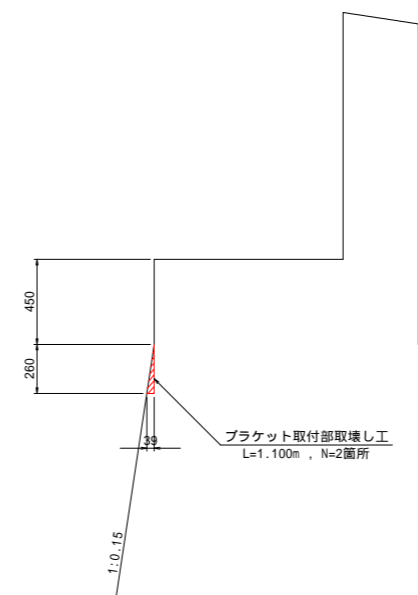
(注記)

1. 図中詳細寸法は、現地実測の上決定のこと。
2. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し既設鉄筋は、切断しないこと。また、既設鉄筋と干渉した場合は、アンカーボルト位置の調整を行うこと。
3. アンカーボルト位置調整に際して、ブラケット端から10cm以上のかぶりを確保すること。
4. 上段アンカーボルト位置調整については、桁受け天端から10cm以上19cm以下の範囲とし、上段と下断の間隔は、31cm以上確保すること。
5. 側面については、コンクリート端部からブラケット端まで4cm以上の間隔を確保すること。

平面図



ブラケット取付部取壊し工



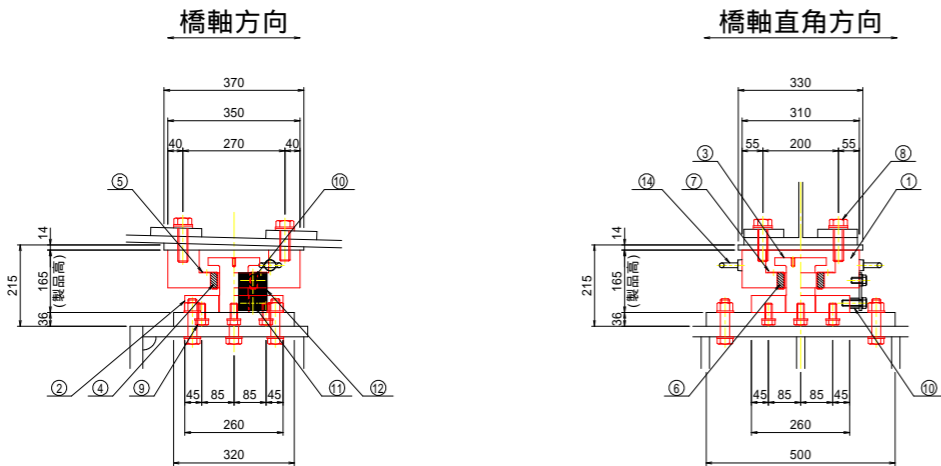
実施設計図面

工事名	R2馬士 小谷西端山線(第一吉良谷橋) つ・貞光吉良 橋梁修繕工事		
路線名等	(一)小谷西端山線		
工事箇所	美馬郡つぎ町貞光吉良(第一吉良谷橋)		
図面名	水平力分担構造詳細図(4)		
縮尺	S=1:20	図面番号	5 / 11
会社名			
事業者名	徳島県西部総合県民局県土整備部<美馬>		

水平力分担構造詳細図(5) S=1:10

(A2橋台(Fix)側 <参考図>)

取付詳細図



材料表 (1基当り)

部番	名称	規格	単位	数量	摘要
1	ソールプレート	SEL-N560-0	個	1	SM490A; 亜鉛アルミ溶射処理
2	リミットピンプレート	SEL-N560用	個	1	SM490A; 亜鉛アルミ溶射処理
3	リミットピン	SEL-N560用	本	1	SCM435; ダクロタイト処理, DMコート
4	バッファ-A	SEL-N560用	個	2	クロロプレングム
5	バッファガイドA	SEL-N560用	個	2	SUS
6	バッファ-B	SEL-N560用	個	2	クロロプレングム
7	バッファガイドB	SEL-N560用	個	2	SUS
8	セットボルト(上側)	M27×90 1W, 1SW付	組	2	強度区分8.8; 亜鉛メッキ (HDZ35)
	セットボルト(下側)	M27×100 1W, 1SW付	組	2	強度区分8.8; 亜鉛メッキ (HDZ35)
9	セットボルト(下側)	M20×45 1W付	組	8	強度区分8.8; 亜鉛メッキ (HDZ35)
納入時用部材					
10	仮固定ボルトA	M16×30 1W付	組	2	SS400相当品; 電気メッキ
11	仮固定ボルトB	M16×55 1W付	組	2	SS400相当品; 電気メッキ
12	仮固定プレート	SEL-N560用	個	2	SS400; 電気メッキ
13	スペーサー	SEL-N560用	個	2	SGP20A; 溶融亜鉛メッキ
14	アイボルト	M16	個	4	SS400相当品; 亜鉛メッキ (HDZ35)

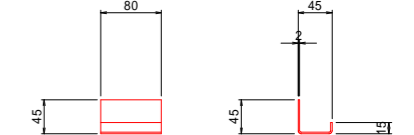
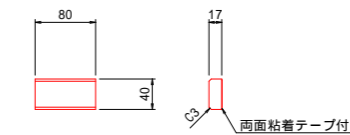
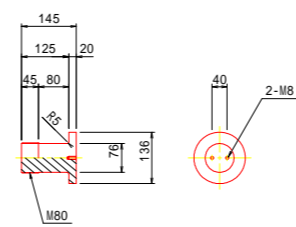
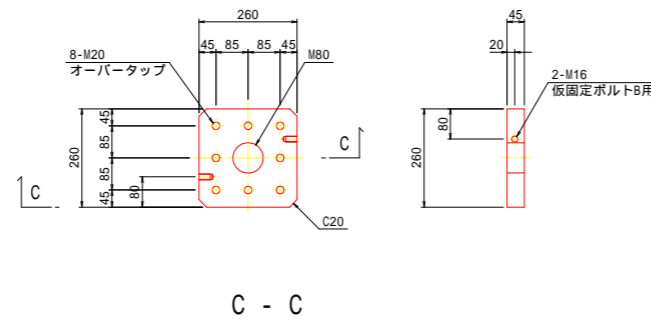
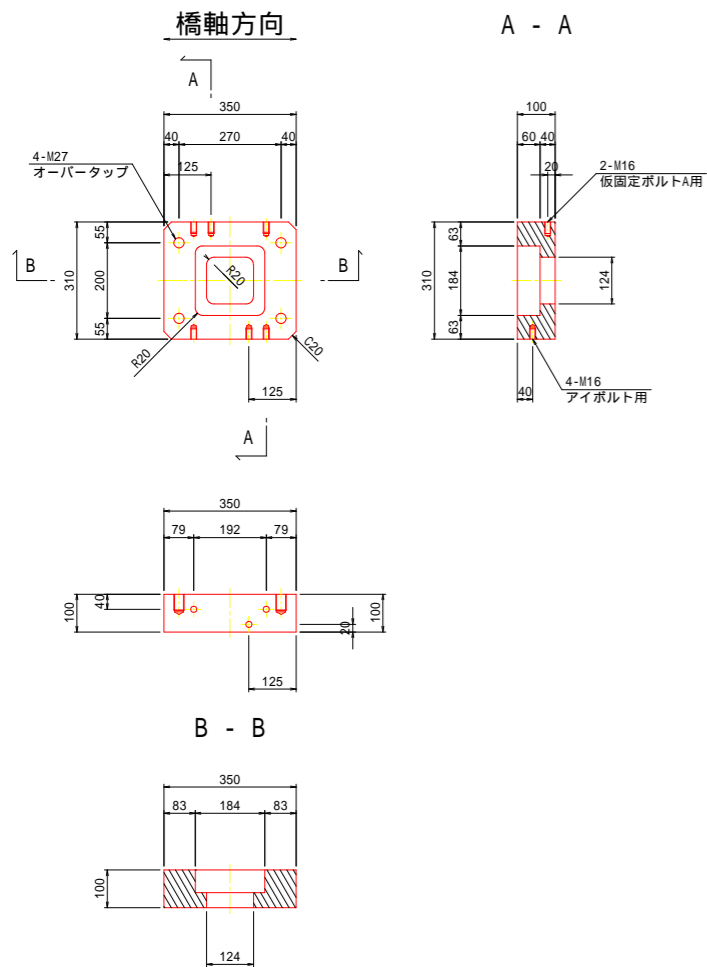
① ソールプレート (SM490A: 亜鉛アルミ溶射処理)

② リミットピンプレート (SM490A: 亜鉛アルミ溶射処理)

③ リミットピン (SCM435: DMコート)

④ バッファ-A (クロロプレングム) S=1:5

⑤ バッファガイドA (SUS) S=1:5

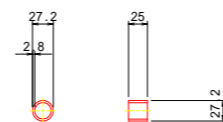
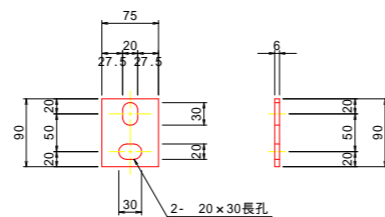


⑥ バッファ-B (クロロプレングム) S=1:5

⑦ バッファガイドB (SUS) S=1:5

⑫ 仮固定プレート (SS400: 電気メッキ) S=1:5

⑬ スペーサー (SGP20A: 溶融亜鉛メッキ) S=1:5



- (注記)
- 水平力分担構造の納入時組立高さは、取付詳細図に示す製品高+10mm程度とする。
 - 据付時は仮固定ボルト他、納入時用部材を取り外し、所定の高さで設置すること。
 - 納入時用部材を取り外した後のタップ孔は、樹脂ボルトもしくはパテ材で埋めること。

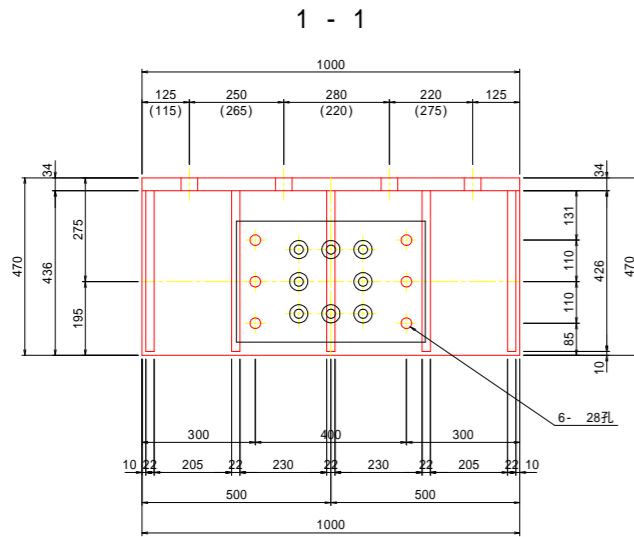
実施設計図面

工事名	R2馬士 小谷西端山線(第一吉良谷橋)
路線名等	つ・貞光吉良 橋梁修繕工事
工事箇所	(一)小谷西端山線
工事箇所	美馬郡つるぎ町貞光吉良(第一吉良谷橋)
図面名	水平力分担構造詳細図(5)
縮尺	S=1:10 図面番号 6 / 11
会社名	
事業者名	徳島県西端山線総合県民局県土整備部<美馬>

水平力分担構造詳細図(6) S=1:10

(A2橋台(Fix)側)

下部工ブラケット詳細図

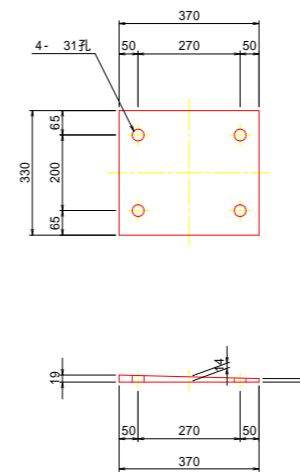


ブラケット1基当り (製作数:2基)

- 1-PL 650×34×1000
- 1-PL 436×28×1000
- 1-PL 200×22×1000
- 5-PL 426×22×590

(注記)
アンカーボルト位置は、()内表記がG2桁側を示す。

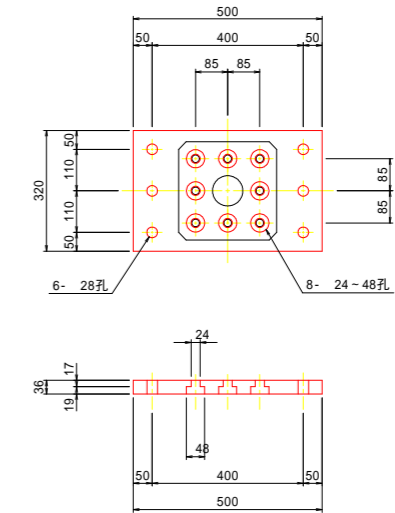
上部工取付プレート



上部工取付プレート1基当り (製作数:2基)

- 1-PL 330×19×370 (SS400)

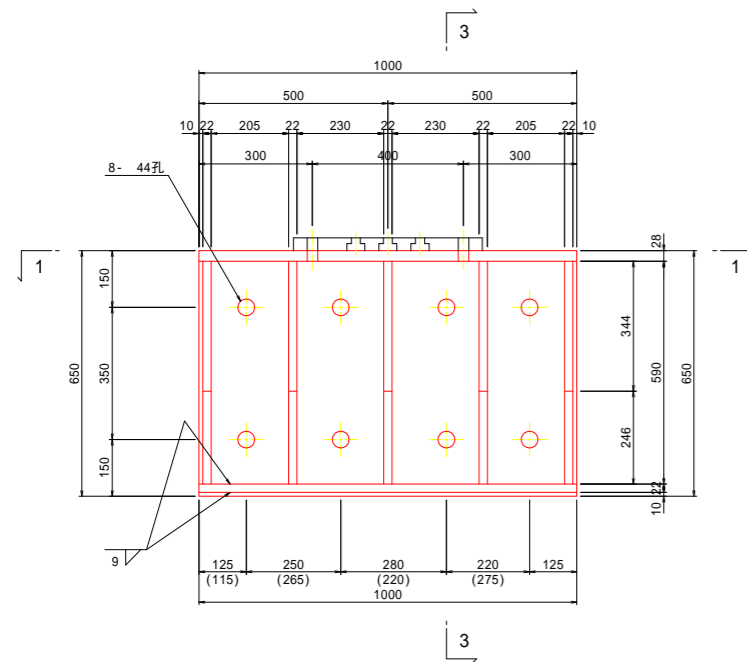
下部工取付プレート



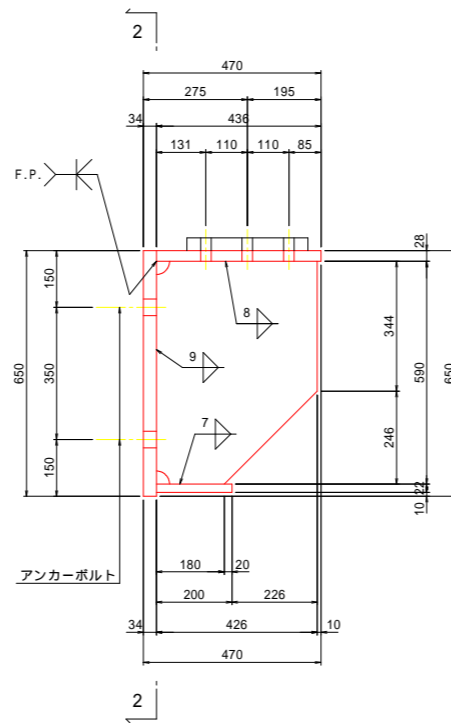
下部工取付プレート1基当り (製作数:2基)

- 1-PL 320×36×500
- 6-Bolt M24×110 [2-W] (強度区分8.8)
- 6-U Nut M24用 (強度区分8.8)

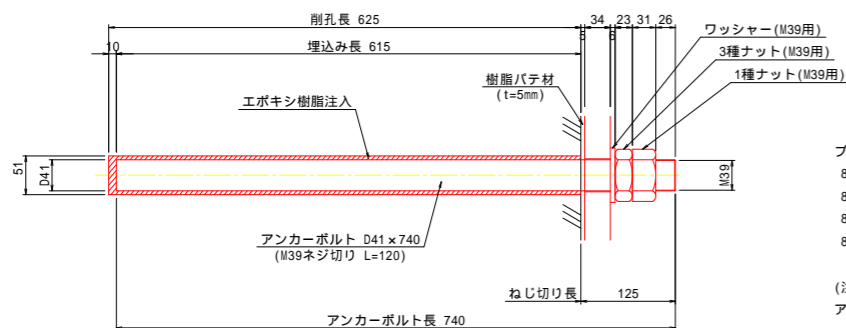
2 - 2



3 - 3



アンカーボルト詳細図 S=1:5

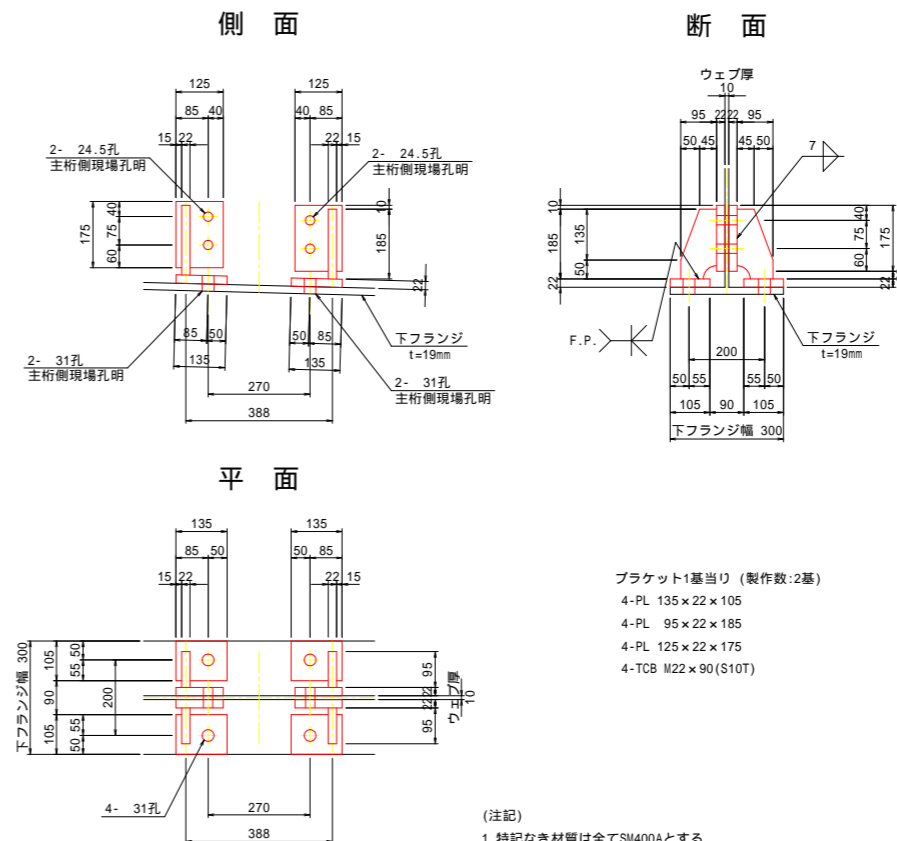


ブラケット1基当り (製作数:2基)

- 8-Anc Bolt D41×740 (SD345)
- 8-1種Nut M39用 (SS400)
- 8-3種Nut M39用 (SS400)
- 8-Washer M39用 (SS400)

(注記)
アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛メッキを施すものとする。

主桁補強材



ブラケット1基当り (製作数:2基)

- 4-PL 135×22×105
- 4-PL 95×22×185
- 4-PL 125×22×175
- 4-TCB M22×90 (S10T)

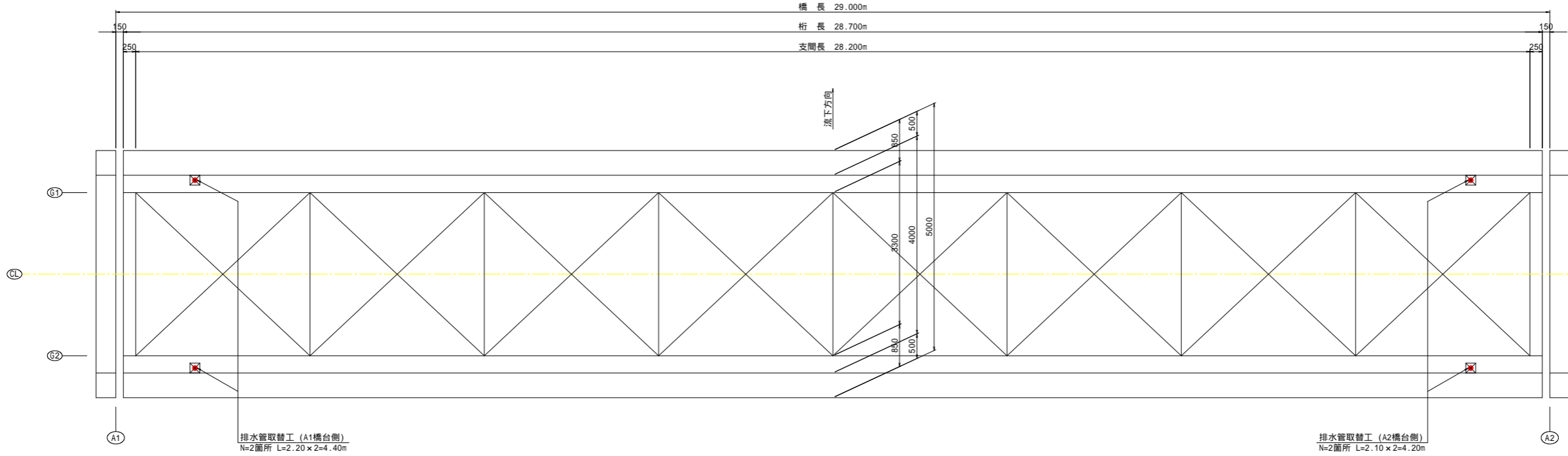
- (注記)
- 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 - 特記なきスカーラップは35Rとする。
 - 主桁補強材以外の部材は全て溶融亜鉛メッキ仕上げとする。亜鉛の付着量はJIS H 8641 HDZ55とする。但し、ボルト・ナット類はHDZ35とする。
 - 主桁補強材は、主桁と同等以上の防錆塗装を施すものとする。
 - 図中詳細寸法は、現地実測の上決定のこと。
 - 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し既設鉄筋は、切断しないこと。また、既設鉄筋と干渉した場合は、アンカーボルト位置の調整を行うこと。

実施設計図面

工事名	R2馬士 小谷西端山線(第一吉良谷橋)
路線名等	つ・貞光吉良 橋梁修繕工事
工事箇所	(一)小谷西端山線
図面名	水平力分担構造詳細図(6)
縮尺	S=1:10 図面番号 7 / 11
会社名	
事業者名	徳島県西端山線県民局県土整備部<美馬>

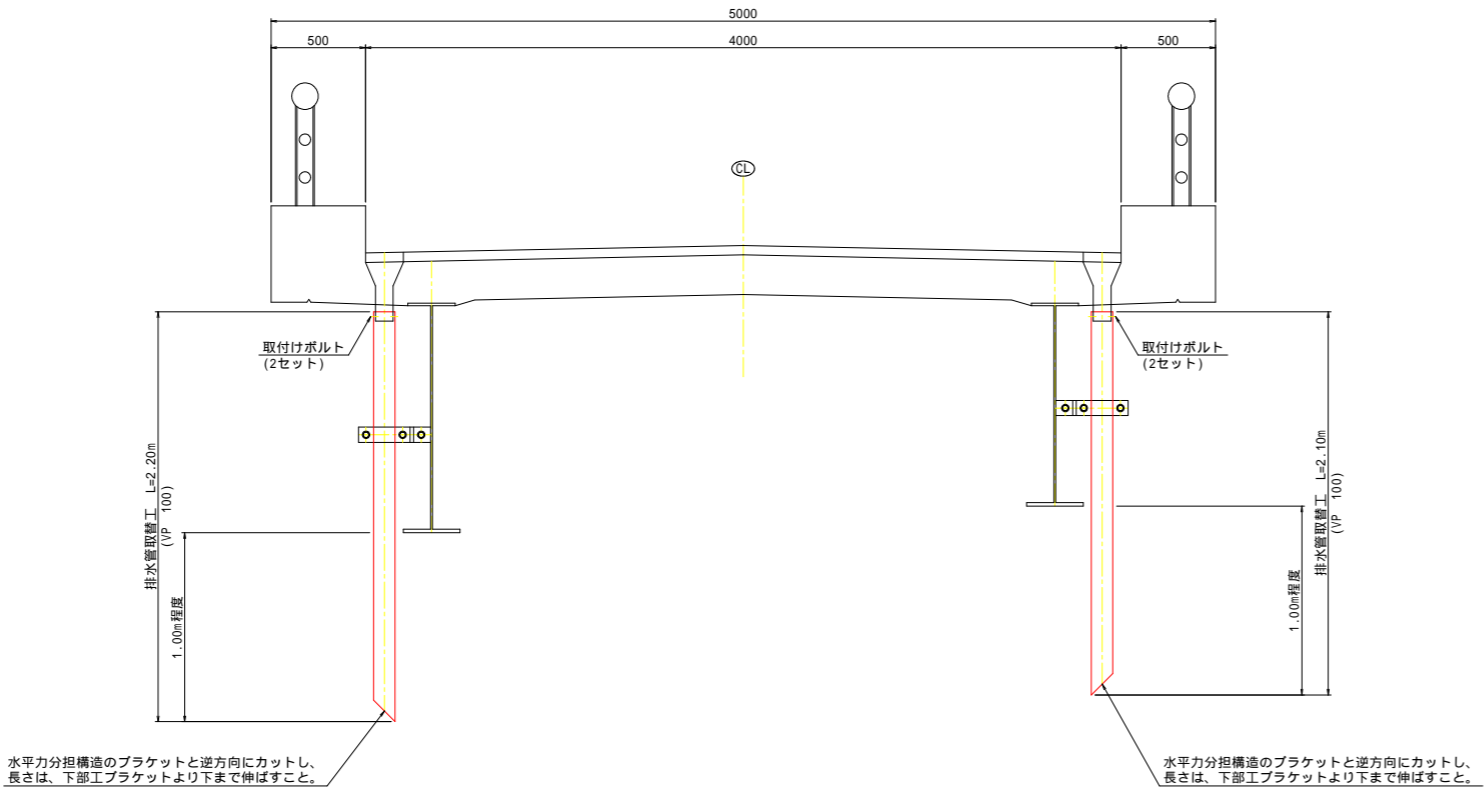
排水管取替工詳細図 S=1:20

位置図 S=1:50



断面図

A1橋台側 A2橋台側



水平力分担構造のブラケットと逆方向にカットし、長さは、下部工ブラケットより下まで伸ばすこと。

水平力分担構造のブラケットと逆方向にカットし、長さは、下部工ブラケットより下まで伸ばすこと。

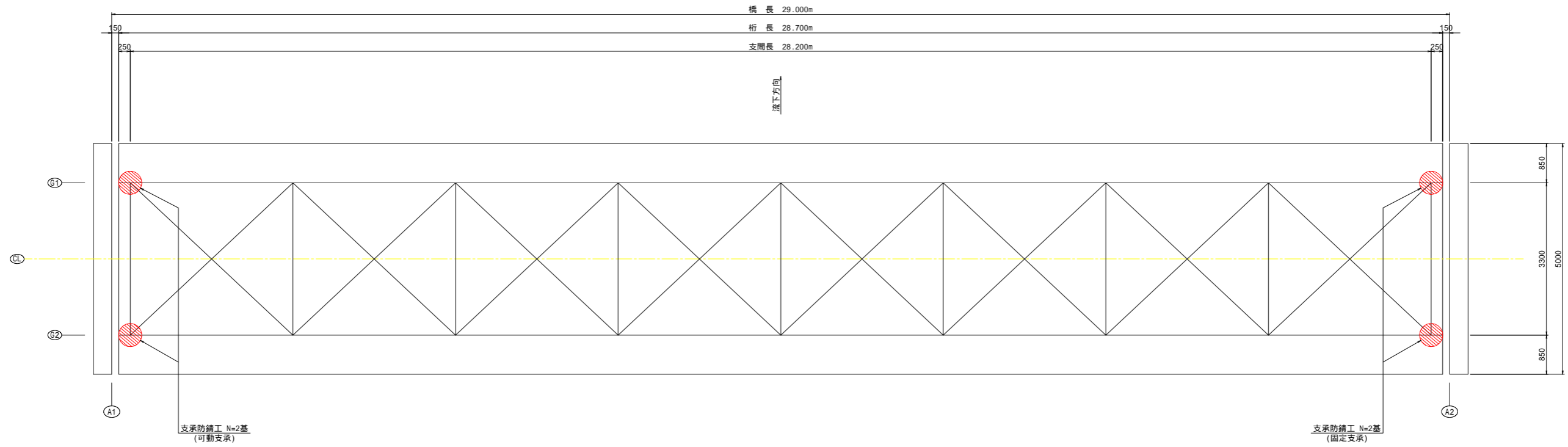
(注記)
1. 各部寸法は、現地実測の上決定のこと。
2. 排水桁と管の接合部は、既設形状に合わせること。

実施設計図面

工事名	R2馬士 小谷西端山線(第一吉良谷橋) づ・貞光吉良 橋梁修繕工事		
路線名等	(一)小谷西端山線		
工事箇所	美馬郡つるぎ町貞光吉良(第一吉良谷橋)		
図面名	排水管取替工詳細図		
縮尺	S=1:20	図面番号	8 / 11
会社名			
事業者名	徳島県西部総合県民局県土整備部<美馬>		

支承防錆工詳細図 S=1:10

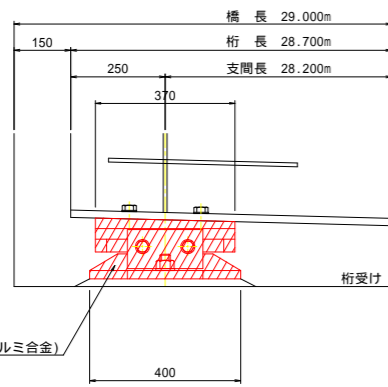
位置図 S=1:50



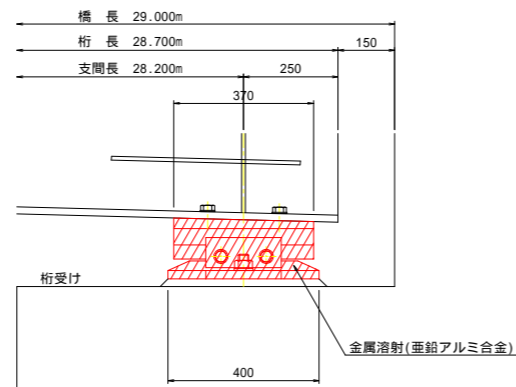
A1橋台(Mov)側支承防錆工

A2橋台(Fix)側支承防錆工

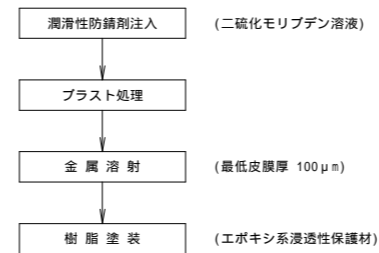
橋軸方向



橋軸方向



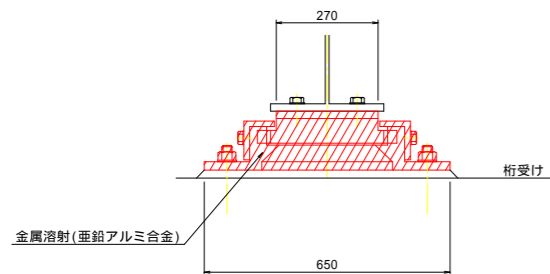
施工手順



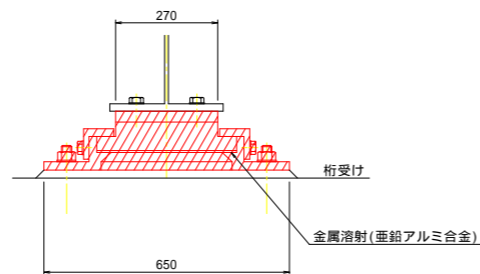
数量表

位置	種類	単位	数量
A1	支承板支承 (Mov)	箇所	2
A2	支承板支承 (Fix)	箇所	2

直角方向



直角方向



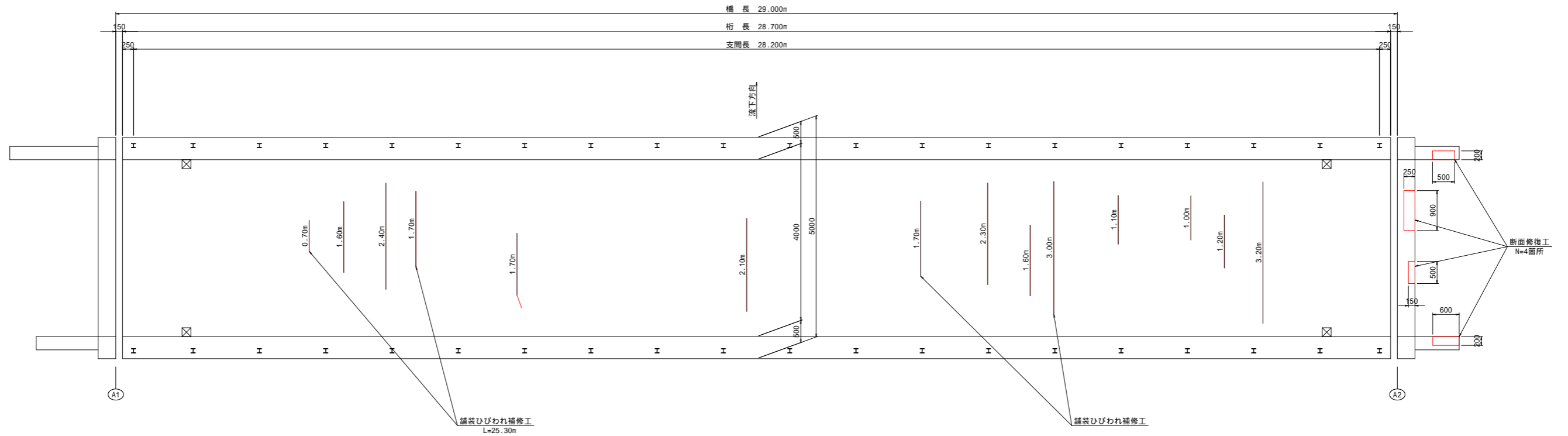
(注記)
 1.各部分法は、現地実測の上決定のこと。

実施設計図面

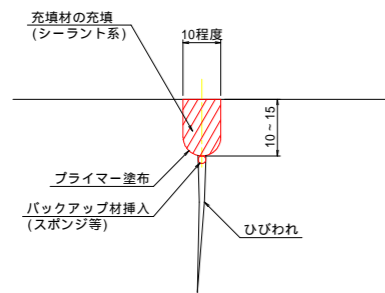
工事名	R2馬士 小谷西端山線(第一吉良谷橋) つ・貞光吉良 橋梁修繕工事		
路線名等	(一)小谷西端山線		
工事箇所	美馬郡つるぎ町貞光吉良(第一吉良谷橋)		
図面名	支承防錆工詳細図		
縮尺	S=1:10	図面番号	9 / 11
会社名			
事業者名	徳島県西部総合県民局県土整備部<美馬>		

橋面補修工詳細図 S=1:50

平面図

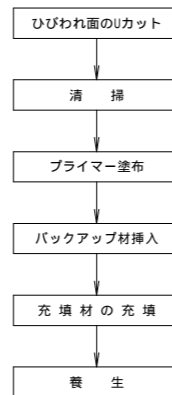


ひびわれ補修工要領図 S=1:1

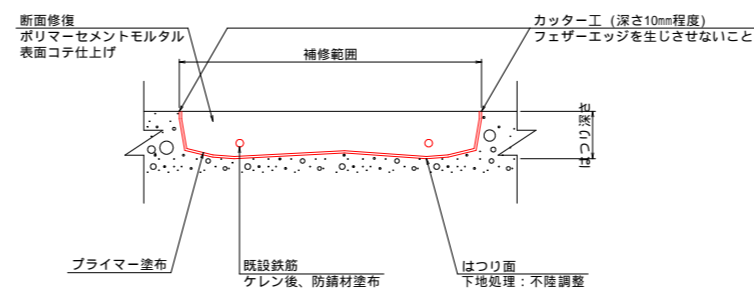


(注記)
1. 想定ひびわれ幅は、1mm以上とする。

施工手順

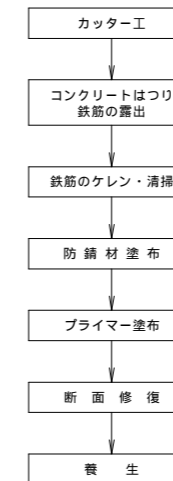


断面修復工要領図 S=1:5



(注記)
1. はつり深さは、100mm程度を想定。ただし、うきや剥離部は全て除去すること。
2. 鉄筋が見えた場合ははつり深さは、鉄筋の裏側が露出するまではつること。
その際、露出した鉄筋は、ケレンを行い防錆材塗布を行うこと。
3. はつりの際は、既設鉄筋を切断しないよう注意すること。
4. 角部等、状況に応じて当て板等を行うこと。

施工手順



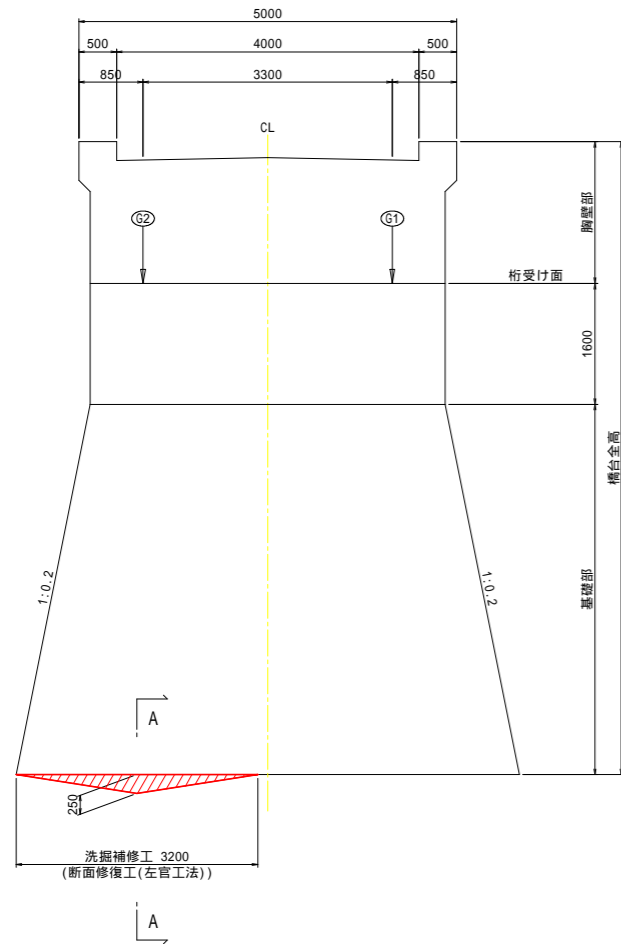
(注記)
1. 各部寸法は、現地実測の上決定のこと。

実施設計図面

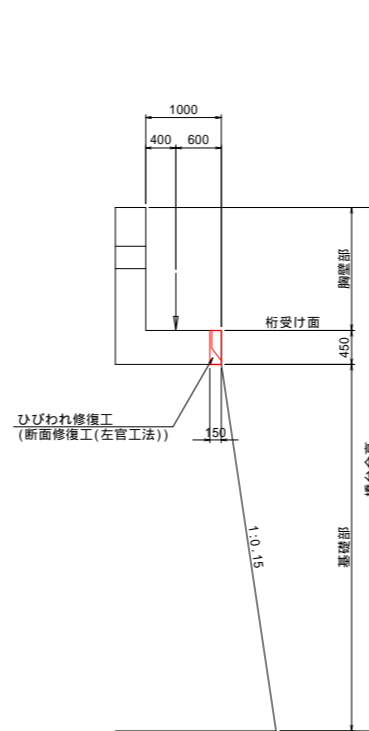
工事名	R2馬士 小谷西端山線(第一吉良谷橋) つ・貞光吉良 橋梁修繕工事		
路線名等	(一)小谷西端山線		
工事箇所	美馬郡つぎ町貞光吉良(第一吉良谷橋)		
図面名	橋面補修工詳細図		
縮尺	S=1:50	図面番号	10 / 11
会社名			
事業者名	徳島県西部総合県民局県土整備部<美馬>		

橋台補修工詳細図 S=1:50

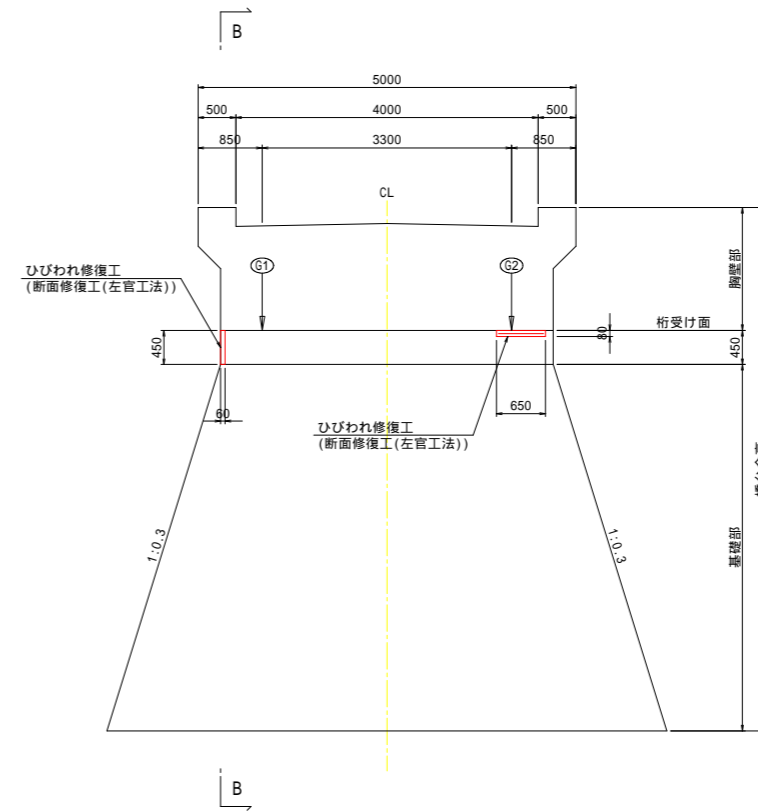
A1橋台正面図



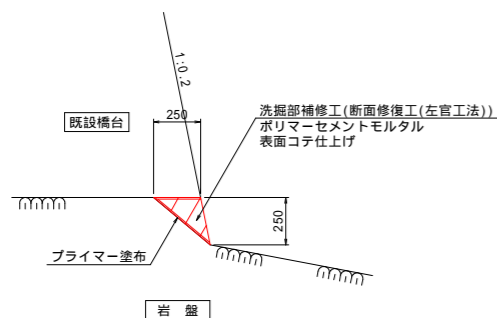
A2橋台側面図 (B-B)



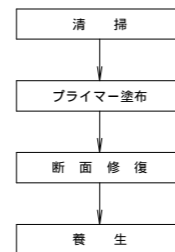
A2橋台正面図



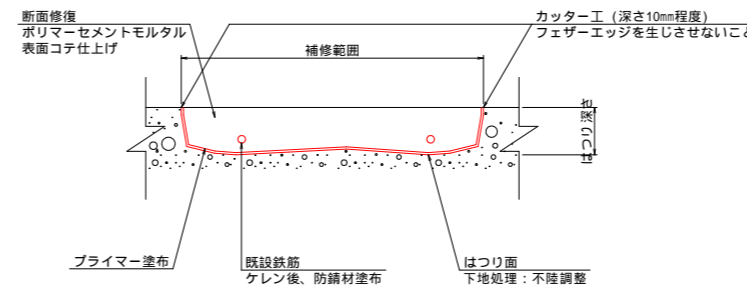
洗掘補修工詳細図 (A-A) S=1:20



施工手順

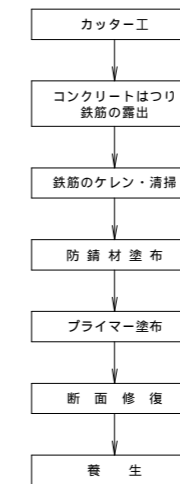


断面修復工法要領図 S=1:5



- (注記)
1. はつり深さは、60mm程度を想定。ただし、うきや剥離部は全て除去すること。
 2. 鉄筋が見えた場合ははつり深さは、鉄筋の裏側が露出するまではつること。その際、露出した鉄筋は、ケレンを行い防錆材塗布を行うこと。
 3. はつりの際は、既設鉄筋を切断しないよう注意すること。
 4. 角部等、状況に応じて当て板等を行うこと。

施工手順



実施設計図面

工事名	R2馬士 小谷西端山線(第一吉良谷橋) づ・貞光吉良 橋梁修繕工事		
路線名等	(一)小谷西端山線		
工事箇所	美馬郡つるぎ町貞光吉良(第一吉良谷橋)		
図面名	橋台補修工詳細図		
縮尺	S=1:50	図面番号	11 / 11
会社名			
事業者名	徳島県西部総合県民局県土整備部<美馬>		